

重信川水系河川整備計画

報告事項

平成21年1月26日

国土交通省 四国地方整備局

目次

1. 河川整備計画検討の流れ
2. 河川整備計画の対象区間・期間
3. 河川整備計画の目標
4. 河川整備計画メニュー
5. 河川整備計画の費用対効果



河川整備計画検討の流れ

第1回 流域学識者会議

・平成19年11月15日(松山市)

第1回 流域住民の意見を聴く会

・平成19年11月24日(東温市)

・平成19年11月26日(松山市)

第1回 流域市町長の意見を聴く会

・平成19年12月12日(松山市)

各会場での意見24人 75件
パブリックコメント53通 89件
合計 164件

第2回流域学識者会議

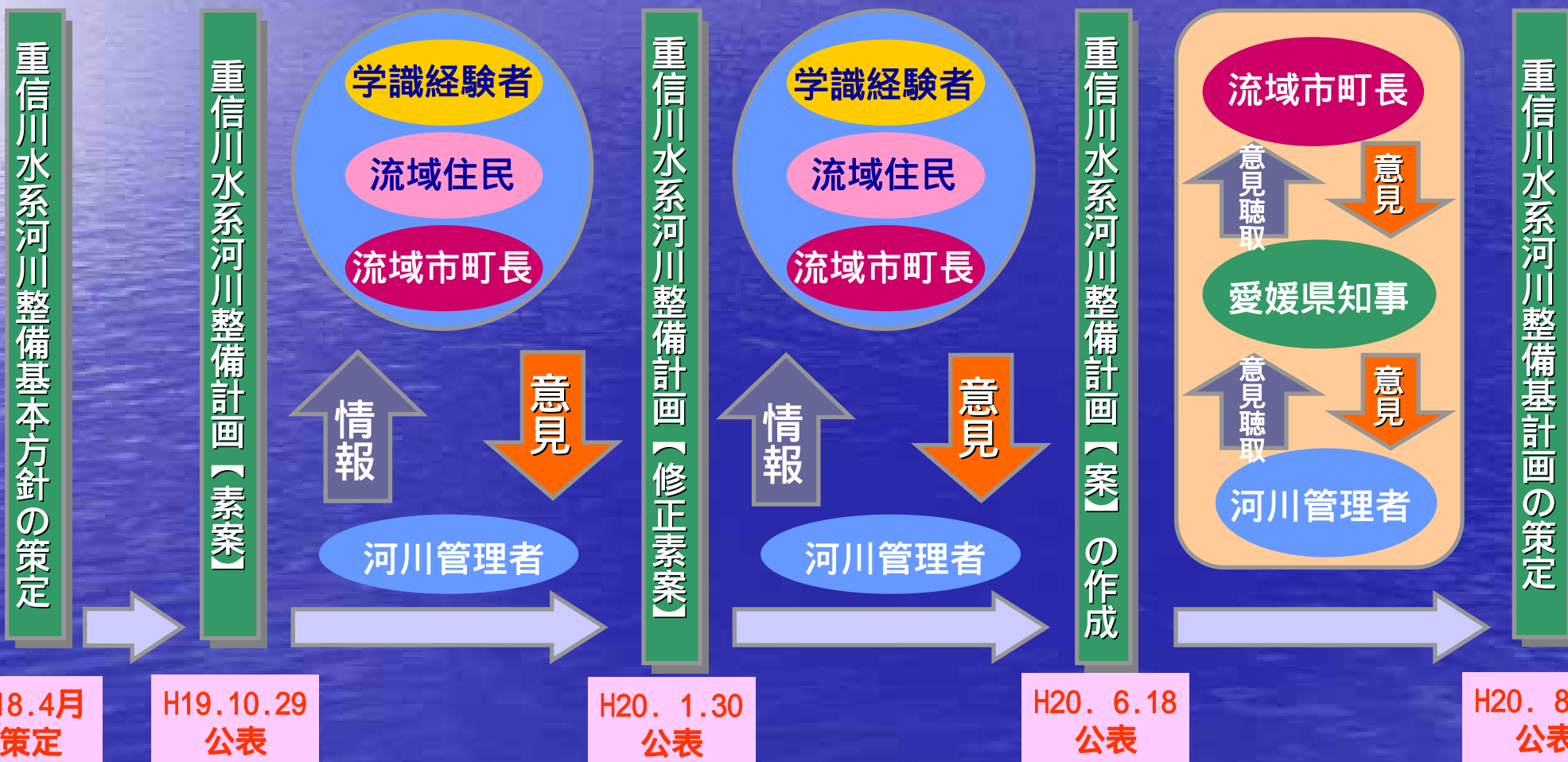
・平成20年2月18日(松山市)

第2回流域住民の意見を聴く会

・平成20年2月18日(松山市)

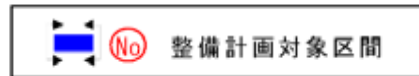
・平成20年2月22日(東温市)

各会場での意見16人 56件
パブリックコメント38通 60件
合計 116件



河川整備計画の対象区間・期間

本整備計画は、重信川水系河川整備基本方針に基づき、重信川の総合的な管理が確保できるよう河川整備の目標及び実施に関する事項を定めるものである。その**対象期間はおおむね30年**とする。

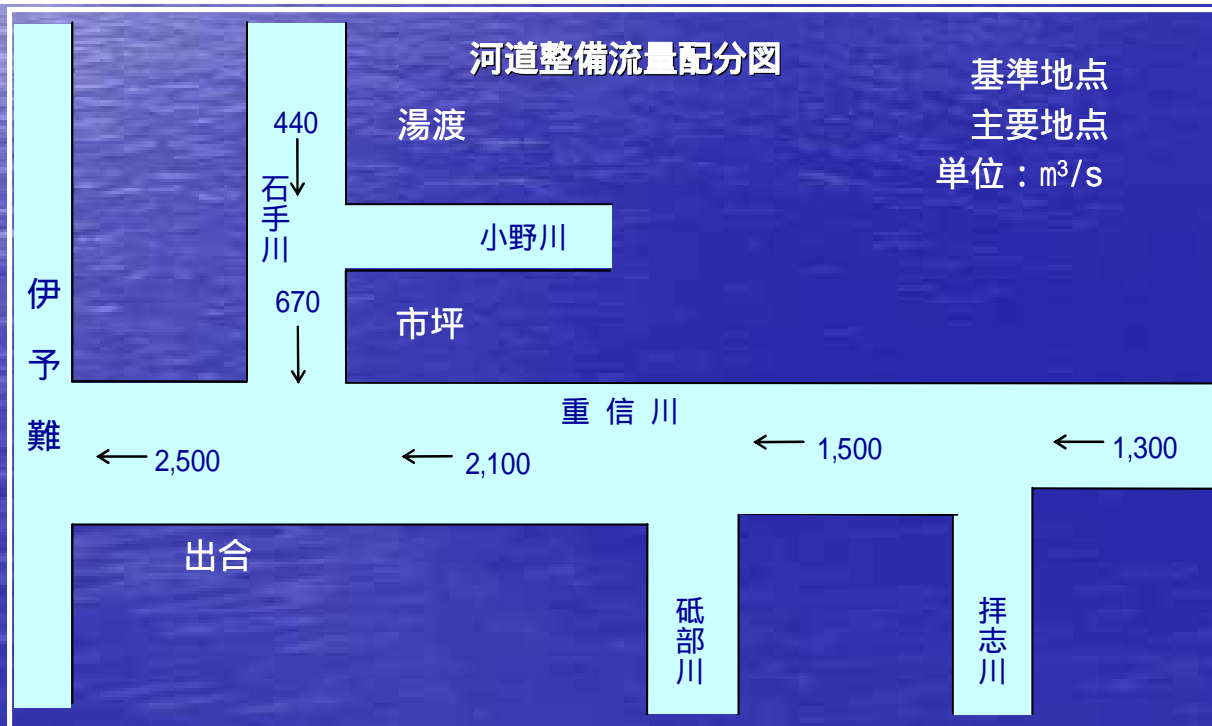


河川整備計画の目標

重信川及び石手川

本整備計画では、**戦後最大流量**を記録した**平成13年6月洪水**と同規模の洪水を安全に流下させる。

河川名	基準地点	河川整備計画		河川整備基本方針	
		目標流量 (m ³ /s)	河道整備流量 (河道の整備で対応する流量) (m ³ /s)	基本高水流量 (m ³ /s)	計画高水流量 (m ³ /s)
重信川	出合	2,500	2,500	3,300	3,000
石手川	湯渡	550	440	770	550



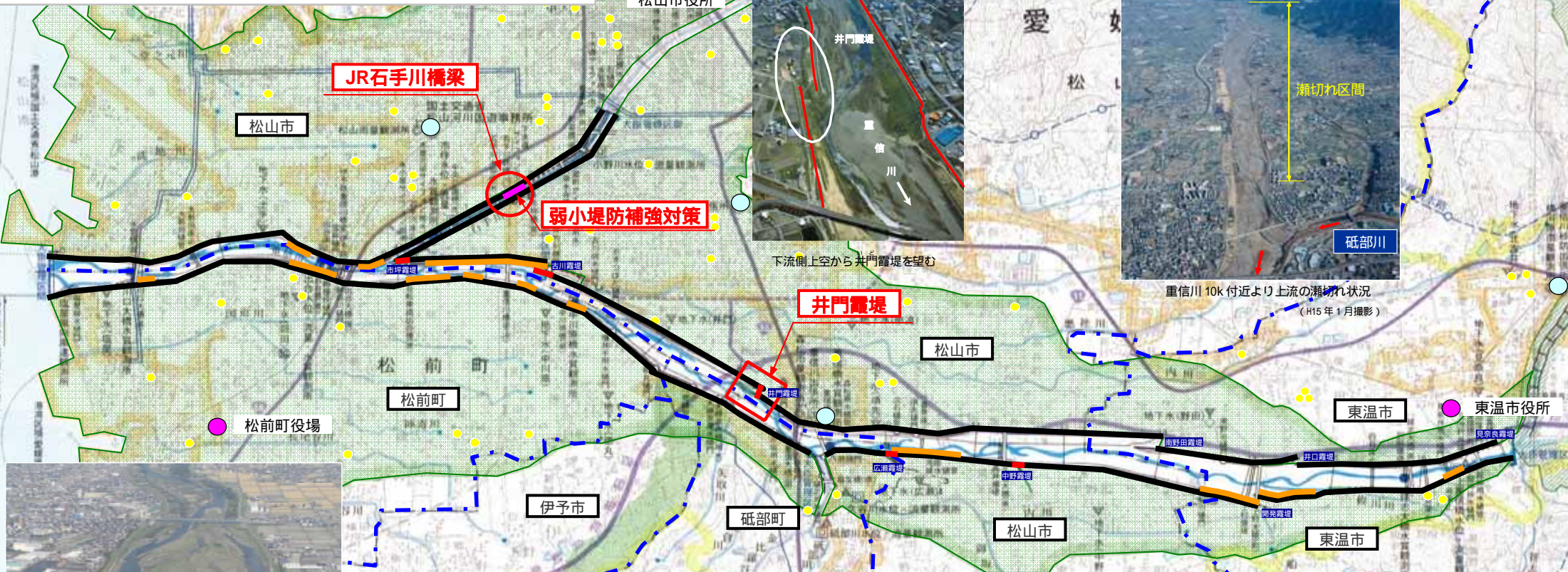
河川整備計画メニュー

治水

(目標) 戦後最大洪水と同規模の洪水を安全に流下させる
 家屋浸水の恐れのある井門霞堤箇所の堤防整備
 局所的な深掘れや堤防浸食に対する堤防強化
 堤防漏水に対する堤防強化
 洪水の流下に悪影響の恐れがある石手川JR橋梁の改築
 堤防断面不足箇所の堤防断面積の拡大等の堤防整備
 大規模地震への対応 等

利水

(目標) 流水の正常な機能を維持するための流量を検討
 河川流量と伏流水、瀬切れとの関係性などの水循環に関する研究の実施
 関係機関と連携を図りながら流域内の健全な水循環の構築の調査、検討 等



下流側上空から井門霞堤を望む



重信川 10k 付近より上流の瀬切れ状況 (H15年1月撮影)



重信川河口(干潟の保全)

環境

(目標) 動植物の生息、生育、繁殖環境の保全と再生
 重信川中流域での、霞堤の環境再生、水辺植生・樹林の保全、再生等による水と緑のネットワークの確保
 重信川下流域での、水辺植生の保全、再生、干潟の保全 等

堤防整備済み区間	—
堤防整備未整備区間	—
流下能力不足箇所	○
家屋床上浸水の恐れがある霞堤箇所	□
局所的な深掘れに対する安全度が低い区間(根入れ不足箇所及び高水敷幅不足箇所)	—
堤防断面不足箇所の堤防断面積の拡大等の堤防整備	—

市町村境	—
県庁	●
市役所、町役場	●
国の出先機関	●
学校の避難所	●

河川整備計画の費用対効果

重信川水系河川整備計画の費用対効果は、 $B / C = 10.97$
(純現在価格は、 $B - C = 620.8$ 億円)

河川整備計画の効果 (Benefit)

- … 河川整備計画での堤防整備等により軽減された被害額
総Benefit 約682.4億円

河川整備計画の費用 (Cost)

- … 河川整備計画の対象期間(河川整備計画策定から概ね30年)に
堤防整備等に要する費用
総Cost 約62.3億円

便益の算定に使用した被害内容

直接被害額の算定

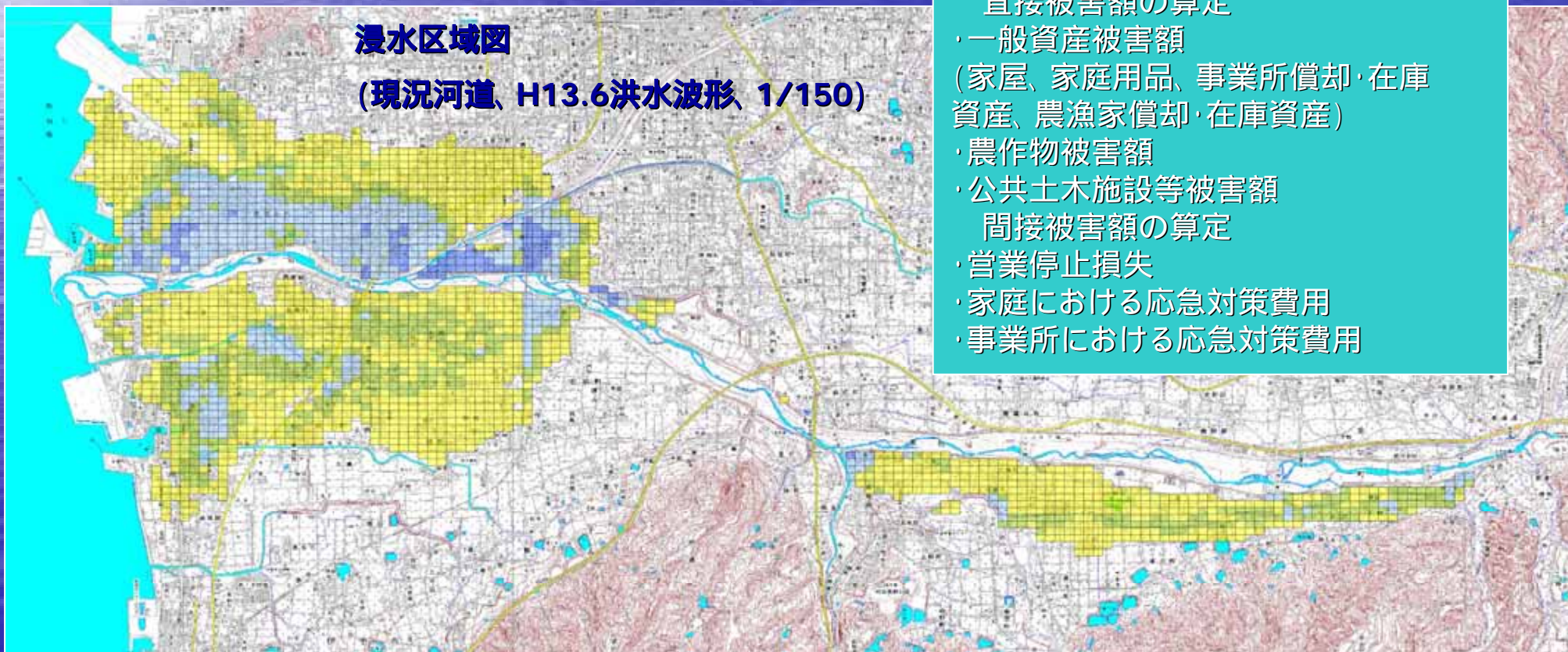
- ・ 一般資産被害額
(家屋、家庭用品、事業所償却・在庫資産、農漁家償却・在庫資産)
- ・ 農作物被害額
- ・ 公共土木施設等被害額

間接被害額の算定

- ・ 営業停止損失
- ・ 家庭における応急対策費用
- ・ 事業所における応急対策費用

浸水区域図

(現況河道、H13.6洪水波形、1/150)





松山城

国道196号

国道11号

国道33号

四国縦貫自動車道

JR予讃線

松山空港

石手川

国道56号

信川

伊予鉄道郡中線

伊予灘